

ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	<p>保育科 准教授</p> <p>川 上 英 明 (かわかみ ひであき)</p> <p>KAWAKAMI Hideaki</p>
所属	保 育 科
学位	博士 (教育学) (東京大学)
資格・免許	小学校教諭一種免許状 全国保育士養成協議会認定保育実習指導者
学歴・職歴	<p><学歴></p> <p>2016年 3月 宮城教育大学教育学部初等教育教員養成課程 言語・社会系社会コース 卒業 (学士 (教育学))</p> <p>2018年 3月 東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻 基礎教育学コース修士課程 修了 (修士 (教育学))</p> <p>2022年 1月 東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻 基礎教育学コース博士課程 修了 (博士 (教育学))</p> <p><職歴></p> <p>2018年 4月 国際テレビシティ小山看護専門学校 兼任講師 (2019年3月まで)</p> <p>2020年 4月 横浜保育福祉専門学校 兼任講師 (2021年3月まで)</p> <p>2021年 4月 山梨学院短期大学保育科 専任講師 (2023年3月まで)</p> <p>2021年 4月 山梨学院大学健康栄養学部 兼任講師 (現在に至る)</p> <p>2023年 4月 山梨学院短期大学保育科 准教授 (現在に至る)</p>
担当科目	<p>教育原理 道德教育の理論と方法 教育職論 現代文化論 地域学校経営論</p> <p>教育哲学 教育学特論 道德教育特論</p> <p>基礎演習 卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ 修了研究</p> <p>保育実習指導Ⅰ・Ⅱ (保育所) 保育実習Ⅰ・Ⅱ (保育所)</p> <p>道德教育指導論 (山梨学院大学健康栄養学部)</p>
専門分野	教育哲学・教育思想史
現在の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・京都学派の哲学と教育学に関する思想史研究 ・「子どものための哲学 (p4c)」の理論と方法
競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「京都学派教育学」における教育と政治の関係をめぐる思想史的研究 (日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究 2023年4月～2028年3月 課題番号 23K12726)
所属学会	<p>日本教育学会 教育哲学学会 教育思想史学会 幼児教育史学会</p> <p>日本哲学プラクティス学会 実存思想協会 ハイデガー・フォーラム</p>
メッセージ	<p>保育の実践知と原理的な知とをつなげる、生きた知識の獲得を目指してください。また、保育者・教育者である以前に、一人の市民として、教養を身につけ、自ら判断し、問題を解決する姿勢を持つことを期待します。</p>

教育	
2024年4月～2025年3月	
教育方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広い社会性と深い臨床性をあわせもつ保育者・教育者の養成 ・ 自律的に考え責任をもった判断と協調的な行動ができる社会人の育成
授業	<p>授業の工夫</p> <p><教育原理> 「教育とは何か」「教育はいかなる営みなのか」という原理的な問いから、教育格差、教員の働き方、LGBTQの子どもの関わりなどの実践的な問題までを扱い、学生が教育の原理的な考え方に入門できるように心がけた。授業終了後に毎時間、小レポートを課し、それに対する回答を次回授業の冒頭で行うことで、卒業必修で受講生が多い講義であるにもかかわらず、双方向的なやり取りができるように工夫した。</p> <p><教育職論> 小学校教諭という職業に関する基本的な知識から、教育職に関する社会問題や哲学的な議論まで、幅広く紹介するように心がけた。なお、哲学的な議論については、補助教材として映像資料を活用し、理解を深めさせるように工夫した。</p> <p><現代文化論> 現代文化を対象とした哲学的・社会史的な考察や批評を行う講義形式の授業の他に、受講生が自らプレゼンテーションをする機会を設けた。そうすることで、自身が関心を持つ事柄について、どのようにして他者に情報を伝えればよいのかということを考えさせるように心がけた。</p> <p><教育哲学> 哲学に触れる機会が少ない学生も取り組みやすいように、授業では、「哲学ウォーク」や「哲学対話」を取り入れた。また、グループでのプレゼンテーションを課し、「主体」「啓蒙」「発達」などのテーマについて調査し発表するアクティブ・ラーニングを取り入れた。</p> <p><教育学特論> 「教育にとって技術とは何か」「戦争と教育」「主体性とは何か」という三つの大きなテーマについて、哲学対話の活動を取り入れつつ、様々な視点から考えさせる講義を組み立てた。哲学対話を通じて、自らの「実感」をもとに、自らの言葉で話す経験を通すことで、座学の学習であっても問題意識を持ち、講義内容について積極的にコメントしたり考察したりすることができるように授業構成を工夫した。</p>
	授業改善のための取組

教育 (つづき)		
2024年4月～2025年3月 (つづき)		
ゼミ	ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)	<p><卒業演習Ⅰ> 大半の時間が数理・データサイエンス・AI教育プログラムに割かれてしまったものの、限られた時間を用いて、映画『怪物』(是枝裕和監督、2023年)を鑑賞した上で、哲学対話の手法を用い、「普通」とはどうか」というテーマについてのディスカッションを行った。</p> <p><卒業演習Ⅱ> 前期は、卒業レポートのテーマを構想させ、後期からの執筆に向けた準備をさせた。また、その合間に、戸谷洋志著『恋愛の哲学』(晶文社、2024年)の輪読を行った。後期は、各自の研究テーマについての先行研究の収集・調査や、調査方法の検討、執筆に際する注意事項などを、基本的には個別に指導した。</p> <p><修了研究> 研究テーマの焦点化、先行研究の収集と分析、インタビュー調査の項目の検討、実践記録の検討、修了論文の構成の検討などを、基本的には個別に指導した。また、それと並行して下記の文献を輪読した。</p> <p>【前期】 山口裕之『「みんな違ってみんないい」のか?—相対主義と普遍主義の問題』(筑摩書房、2022年)</p> <p>【後期】 岸 圭介『学力は「ごめんなさい」にあらわれる』(筑摩書房、2024年) 中野円佳『教育にひそむジェンダー—学校・家庭・メディアが「らしさ」を強いる』(筑摩書房、2024年)</p>
	卒業レポート・ 修了研究テーマ	<p><卒業レポートテーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「蛙化現象」に関する大学生の意識調査 ・日本と他国における人種差別の相違 ・自らをACと認めたものによる当事者研究 —自分の人生を論文から客観的に見つめ直す— ・短期大学生における告白の成功/失敗に関する現状についての考察 ・男女における恋愛関係あるいは友人関係の捉え方の相違 ・同性愛をテーマにしたドラマに対する大学生の価値観についての調査 ・ひとり親家庭が必要とする支援 —母子・父子家庭の子どもの想い— 【共同研究】 ・メイクアップがもたらす自尊感情およびポジティブ気分の変化 —メイクアップ依存について— ・保育において何が「愛情」と呼ばれているのか —保育者へのインタビュー調査を通して— ・子どもを虐待する親の心理 ・推しがいることで生活は豊かになるのか —「推し活」するオタクたちへのインタビュー調査を通じて— <p><修了研究テーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育現場におけるトランスジェンダー支援の在り方について —当事者へのインタビュー調査を通して— ・糸賀一雄における「共感」思想の実践的意義 ・児童の意見表明を促進する対話の場とはなにか —子どもの哲学(p4c)におけるセーフティを確保するための具体的方法— ・主体性を育むための環境構成のあり方について —レジャ・アプローチの幼児教育に着目して—

教育 (つづき)		
2024年4月～2025年3月 (つづき)		
課外活動	・短期大学バスケットボール部 顧問	
2024年3月以前		
主な教育業績	2024年2月 専攻科ゼミの指導学生が、全国保育士養成協議会関東ブロック協議会主催の「第37回学生研究発表会」において研究成果を発表した。	
研究		
2024年4月～2025年3月		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) <u>査読付き</u> 京都学派教育学の〈亀裂〉－木村素衛と森昭、あるいは形式的表現と政治的実践の対立の根底－ (単著)	2024年 9月	教育思想史学会『近代教育フォーラム』第33号 (64-74頁)
(その他：実践報告) <u>査読付き</u> 「実感」を概念化する哲学対話についての実践報告－「教育哲学する」教員を養成するために－ (単独)	2025年 3月	『山梨学院短期大学研究紀要』第45巻
(その他：学会発表) 教育人間学のハイデガー－京都学派における「存在論と人間学」の問題－ (共同) *川上報告『「人間学のハイデガー的形態」を政治化する－三木清・九鬼周造から中井正一の人間学へ－』	2024年 9月	教育思想史学会第34回大会 (於：同志社大学) 企画：森七恵 司会：井谷信彦 報告：森七恵、高谷掌子、 門前斐紀、 <u>川上英明</u>
(その他：学会発表) 分裂する主体性－中井正一における集団的 主体性の思想と実践－ (単独)	2024年 9月	教育哲学会第67回大会 (於：早稲田大学)
(その他：学会発表) 形の変化と持続－三木清における習慣と技術をめぐる問題構制－ (単独)	2024年 8月	日本教育学会第83回大会 (於：オンライン、会場校：名古屋大学)
(その他：書評) 下司晶編著『未来の教育を創る教職教養指針8 道徳教育』 (単独)	2024年 7月	日本哲学プラクティス学会『思考と対話』第6号 (77-81頁)

研究 (つづき)		
2024年3月以前 (主なもの)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(著書) 安部孝編『教育原理－教育・保育をひらく－』 (共著)	2024年 3月	みらい 担当部分:第7章 日本の教育の思想
(学術論文) <u>査読付き</u> 久野収における〈教育と政治〉をめぐる問題 構制－彼の道徳教育論とその特質に着目して－ (単著)	2023年 3月	『山梨学院短期大学研究紀要』 第43巻 (43-54頁)
(学術論文) <u>査読付き</u> 大正生命主義の思想圏における木下竹次の 合科学習－「総合的な学習／探究の時間」の 思想史のために－ (単著)	2022年 3月	『山梨学院短期大学研究紀要』 第42巻 (31-42頁)
(学術論文) 京都学派の緊張と教育学への越境－田邊元 の哲学と森昭の教育思想－ (単著)	2022年 1月	東京大学 (博士論文)
(学術論文) <u>査読付き</u> 田邊元と森昭における偶然性の問題－戦後 教育学の発達論に伴う必然性を相対化する ために－ (単著)	2021年 12月	日本教育学会『教育学研究』 第88巻第4号 (610-621頁)
(学術論文) <u>査読付き</u> 田邊元と森昭の経験主義批判における認識 論の問題－京都学派教育学における「行為 的自覚」の系譜－ (単著)	2021年 9月	教育思想史学会『近代教育フォーラム』 第30号 (147-157頁)
(学術論文) <u>査読付き</u> 森昭における社会性と個性をめぐる問題 構制－田邊元のハイデガー批判との関連性 － (単著)	2020年 11月	教育哲学会『教育哲学研究』 第122号 (1-19頁)

研究 (つづき)		
2024年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) <u>査読付き</u> 人間生成の歴史性と自然性－京都学派の思想圏における森昭のハイデガー解釈－ (単著)	2020年 9月	日本教育学会『教育学研究』第87巻第3号 (367-378頁)
(学術論文) A Philosophical Study on Evidence-based Education and "Subjectification": Exploring a New Conception of Citizenship Education in an Age of Measurement (共著)	2020年 3月	『東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化・効果検証センター研究紀要』第5号 (34-42頁) (<u>Hideaki Kawakami</u> , So Fujieda, Naoki Tanabe, Hiromu Higuchi, and Yu Iwase)
(その他：実践報告) <u>査読付き</u> 幼稚園および小学校教員養成課程における哲学プラクティスの意義と課題－「哲学ウォーク」と「子どものための哲学 (p4c)」の実践についての省察－ (単独)	2024年 3月	『山梨学院短期大学研究紀要』第44巻
(その他：書評) 山田真由美著『京都学派の教育思想－歴史哲学と教育哲学の架橋』 (単独)	2023年 9月	教育思想史学会『近代教育フォーラム』第32号 (166-169頁)
(その他：学会発表 (フォーラム報告)) 京都学派教育学の〈亀裂〉－木村素衛と森昭、あるいは形式的表現と政治的実践の対立の根底－ (単独)	2023年 9月	教育思想史学会第33回大会 (於：同志社大学、招待あり)
(その他：学会発表 (ポスター)) <u>ピア・レビュー付き</u> The Tension Between Individuality and Sociality in the Philosophy of Education: Focusing on the Concept of Being-in-the-World in Martin Heidegger and Akira Mori (単独)	2019年 8月	World Education Research Association, 10th Focal Meeting (at Gakushuin University)

社会貢献	
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等	
2024年4月～2025年3月	
2025年2月	学校法人岩田学園いづみ幼稚園公開保育 アドバイザー
2025年1月	学校法人岩田学園いづみ幼稚園 幼児教育アドバイザー訪問事業
2024年5月	山梨学院短期大学地域連携研究センター公開講座 講師
2024年4月	山梨学院高大連携事業 講師
2024年4月	やまなし幼児教育センター 幼児教育アドバイザー
2024年3月以前（主なもの）	
2023年8月	山梨学院幼稚園園内研修 講師
2023年4月	山梨学院高大連携事業 講師
2023年4月	やまなし幼児教育センター 幼児教育アドバイザー（現在に至る）
2023年2月	山梨学院短期大学地域連携研究センター公開講座 講師
2018年11月	教育思想史学会第10期事務局 幹事（～2021年3月）
受賞 ※個人、所属団体	
2022年9月	第19回教育思想史学会奨励賞（個人）